

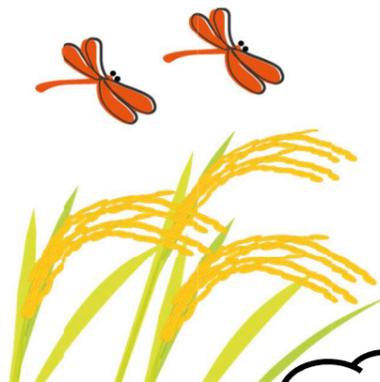
# 図書案内

2017年 9月号

担当 3-1H 伊藤 3-2H 山崎

## 特集 ○○の秋

そろそろ夏も終わり、秋が近づくこの季節。秋といえば「○○の秋」と連想ワードが次々に浮かびますね。今回は「**食欲の秋**」「**芸術の秋**」「**スポーツの秋**」「**行楽の秋**」と、「○○の秋」を特集しました。体育大会で疲れた体と心を「**読書の秋**」でリフレッシュしてみたいはいかがですか？



飛込競技には「高飛び込み」と「飛び板飛び込み」があります。

「高飛び込み」は水面からの高さが5m、7.5m、10mの固定した台から行う飛び込みです。

「飛び板飛び込み」は水面からの高さが1m、3mのところに備え付けられた弾力性のある板から行う飛び込みです。また、2人同時に演技するシンクロナイズドダイビングもあり、2000年のシドニー五輪から正式種目に採用されました。

スポーツの秋

『DIVE!!(上・下)』 森絵都／著



わずか1.4秒の空中演技。飛び込み競技に魅了された、知季・要一・飛沫の3少年。不安や戸惑いを抱えながらも、所属する弱小ダイビングクラブ存続のために、新任の女性コーチのもと、オリンピックの出場を目指す。一瞬の飛翔に凝縮される青春のきらめきを感じてみませんか？ 実生活で飛び込みを体験することはなかなかできませんが、本の中なら簡単に「スポーツの秋」が体験できますよ。

「四回半を成功させればだれだって人々を感動させられる。ちょっと器用なダイバーなら三回半で観衆をわかせることもできるわ。でも、ただ飛ぶだけ。それだけで人々の心をつかむことができるのは、私の知る中で一人だけ……沖津飛沫、あなただけよ」

食欲の秋

『彼女のこんだて帖』 角田光代／著

「私」は己が食べたもので出来ています。当たり前のことですが不思議なものです。夏も終わり、行事が目白押しで慌ただしい9月。悲しみや苦しみもしっかり噛んで味わって、自分の栄養にできたなら——そんな前向きな気分させてくれる、15品の温かな料理にまつわる連作短編小説集。巻末にはレシピが掲載されているので、気分転換に「食欲の秋」を満喫してみたいはいかがでしょう？

カロリーが低く、栄養が偏らず、なおかつ食べ応えのある食事、などとハードルが高くなると、山を前にした山男のように、むくむくと挑戦心が芽生えてくるのだった。



「スポーツの秋」という言葉の誕生は、東京オリンピック(1964年)の開会式が10月10日に行われたことに由来するそうです。もともと秋は気候や天気が良く、運動するのに適している季節であるうえ、オリンピックをきっかけに国民で運動を楽しもうと風潮が高まり、オリンピックの2年後(1966年)に「体育の日」が制定されました。

行楽の秋

『森見登美彦の京都ぐるぐる案内』 森見登美彦／著

中部高校には森見登美彦好きが多く在籍しているらしい……。転がり廻り駆け抜けていく幻想の虜である皆さん、本の中で「行楽の秋」を味わってみては？ 本書に掲載された名作品の名場面と叙情的な写真の共演は、傑作の舞台である京都の魅力があふれています。森見登美彦作品が未読の人も、不思議で愛らしい森見ワールドへ誘われることでしょう。

「よくよく考えると、ぜんぶ京都なのだな」と登美彦氏は考えた。「源氏物語も今昔物語も、ぜんぶご近所のお話なのだな」



芸術の秋

『海鳴屋楽団、空をいく』 野中ともそ／著

会社を辞め、立山連峰をのぞむ小さな田舎町にやってきた里男。風呂とメシが自慢の旅館・海鳴屋の従業員とともに、スティール・パン(カリブの打楽器)を奏でながらそれぞれの過去や秘密に触れていく。彼らは血のつながりはなくても、音楽を通じて家族のように交流できる。「芸術の秋」であるこの季節、笑顔あり、葛藤ありの海鳴屋メンバーの日常をぜひ読んでみてください。

「あまり聴こえなかったやがね。耳からは。だけんど、もっとべつのところから聴こえたちゃ。よおく聴こえたがよ」



秋は紅葉が美しいですね。実は「もみじ」と「かえで」はどちらもカエデ科カエデ属。植物分類上は区別しないのです。「もみじ」と呼ばれる由来は、ベニバナなどから染料を揉み出す「もみづ」から、葉が色づくさまを「もみぢ」と言うようになりました。楓のなかでも特に紅葉するものを「もみじ」と呼ぶようになったそうです。